

がっこう 応援便り

号外

2016 春



『防災手帳』指導 の手引き

今こそ必要 「防災教育」

日 本各地で大雨、台風、火山噴火、竜巻などが多発する中、「いかに自分の身を守るか」を学ぶ、防災教育が重要性を増しています。

当冊子は同送の『防災手帳』を使った防災教育のための指導手引書です。

文部科学省は2013年3月、東日本大震災での課題を踏まえ、『生きる力』を育む防災教育の展開』を改訂し、教育段階に応じた防災教育の

方向性を提示しました。『防災手帳』は、その中の「小学校段階における防災教育の目標」に則した防災教材として製作しました。

当冊子には、『防災手帳』の各ページの使い方やねらいのほか、参考図書・サイトなども紹介しています。

それぞれの学校の実情に合わせ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などで活用してください。

小学校段階における 防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童

ア 知識、思考・判断

- ・ 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる
- ・ 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する

イ 危険予測・主体的な行動

- ・ 災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる

ウ 社会貢献、支援者の基盤

- ・ 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる

出典：文部科学省「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開』から一部抜粋



子どもたちが自らの判断で安全な行動を取れるように

災害が起こった時、子どもたちに求められるのはどのような力でしょうか。東京学芸大学の渡邊正樹教授に防災教育のねらいや目標について、解説していただきました。



連絡手段の理解

災害時に利用可能なサービスなどで連絡を取ることができる



危険予測

どんな危険があるのか予測して備えることができる



身近な物の活用

災害時に身近な物を工夫して活用することができる



『防災手帳』

いざという時、自らの判断で危機管理できる力を育む、書き込み式防災教材（小学校高学年向け）



避難場所の理解

地域の避難場所や避難所を知り、災害時に適切に避難できる



危険回避

自らの安全のために取るべき行動をとっさに判断できる

地震などはいつ、どこで起こるか分かりません。子どもたちが学校にいない時、子どもたちの周りに大人がいない時に起こる可能性もあります。防災教育で最も大事なことは、いざという時、周りに大人がいなくても、子どもたちが自ら危険を予測し、危険を回避する行動を取れるようになることです。

自然災害時には、「これをすれば絶対安全」というものはありません。とっさの判断で安全な行動を取れることが大事です。そのためには、教室での学びだけでは不十分です。子どもたちが日頃から、家の周りや通学路などを調べたり、調べたことを振り返ったりできるよう、防災・減災への関心を高められる指導を心がけましょう。



東京学芸大学
渡邊正樹教授

防災手帳の使い方

※『防災手帳』の記入例は、社会応援ネットワークのホームページ (<http://shakai-ouen.com/>) から入手できます。『防災手帳』の記入例や授業実践事例をお寄せください。

災害危険度チェックシート(P1-2)

●使い方

地域の特徴をつかみ、災害を総合的にとらえることがねらいです。P1では各項目を参考にチェックを入れます。P2ではチェックの数に応じて、色を塗るようになっています。

過去に津波の被害がなくても、「海や川に近い」「海拔が低い」場所では、津波などの被害が発生する可能性が高いことや、古い建物は雪の重みで倒壊する危険性があるなど、さまざまな要因が重なって災害が起こることを伝えるのも重要です。



わたしたちの住む地域には、どのような特徴があるでしょうか。起こりやすい災害を考えてみましょう。

災害危険度チェックシート

地域で起こりやすい災害は?

あなたの住んでいる地域で起こりやすい災害は何でしょう?
下のチェックシートをもとに考えてみましょう。

あてはまるところに✓(チェック)を入れましょう。

<p><input type="checkbox"/> 地震</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 過去に大きな地震がありましたか。 <input type="checkbox"/> がけや急な斜面がありますか。 <input type="checkbox"/> 耐震化されていない建物はありますか。 <p><input type="checkbox"/> 津波</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 過去に津波がありましたか。 <input type="checkbox"/> 海や川はありますか。 <input type="checkbox"/> 海拔が低いですか。 <p><input type="checkbox"/> 風水害</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 過去に川のはんらんがありましたか。 <input type="checkbox"/> がけや急な斜面はありますか。 <input type="checkbox"/> 電線が起きたことはありますか。 <p><input type="checkbox"/> 火山</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 火山はありますか。 <input type="checkbox"/> 過去に噴火した山はありますか。 <input type="checkbox"/> 火山灰が降ってきたことはありますか。 <p><input type="checkbox"/> 雪害</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 毎年の降雪量は多いですか。 <input type="checkbox"/> 過去に大きな雪害がありましたか。 <input type="checkbox"/> 雪崩の危険がある急な斜面はありますか。 	<p>チェックが入った数に応じてメーターに色をぬりましょう。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">チェック3個 とても危険 赤色</td> <td style="text-align: center;">チェック2個 危険 黄色</td> <td style="text-align: center;">チェック1個 注意 黄緑色</td> <td style="text-align: center;">チェックなし 緑色</td> </tr> </table> <p>チェックの数で色をつけてぬりましょう。</p> <p>例: チェック2個(危険)の場合</p>	チェック3個 とても危険 赤色	チェック2個 危険 黄色	チェック1個 注意 黄緑色	チェックなし 緑色
チェック3個 とても危険 赤色	チェック2個 危険 黄色	チェック1個 注意 黄緑色	チェックなし 緑色		

1 2

補足

1 災害対策に「絶対」はありません。チェックが付かなくても、起こりうる災害への注意を促しましょう。

2 実際の地震・津波などの写真を掲載しています。子どもたちの状況に応じて使用してください。

地域と災害調べ学習

地域で過去に起きた災害は?

あなたの住んでいる地域で過去にどんな災害があったか、役所や図書館に行ったり、近所の人に聞いてみて、調べてみましょう。

- いつ・どんな災害

年 _____ の災害

- 被害の様子

今後、発生が予想される災害は?

- この地域で特に危険なのは

- 特に注意することは

補足

1 阪神・淡路大震災、東日本大震災などの大きな災害だけでなく、その地域に特徴的な災害を取り上げると効果的です。

2 災害の要因となる自然現象について正しく理解した上で、災害時の適切な行動につなげるようにしましょう。

地域と災害調べ学習(P3-4)

●使い方

過去に起こった災害を知ることで、地域の特徴を学び、発生が予想される災害への対応を考えることをねらいとしています。

学んだことを発表する機会を作ると、より子どもたちの関心が高まります。例えば、壁新聞を作って教室に張り出したり、保護者や地域の人を招いて発表会を開いたりすることも効果的です。理科や社会科、総合的な学習の時間、特別活動などと組み合わせて取り組みましょう。

地震がなぜ起こるのかわっていますか。なぜ地面が揺れるのか、科学的な要因も合わせて調べてみましょう。



災害時の心得 1 (地震・津波) (P5-6)

●使い方

地震発生時、ゆれの大きさやどこにいるかなどによって、取るべき行動や避難するべき場所は異なります。大人の指示を待たず、子どもひとりでも適切に避難できるようにしておくことが重要です。住む地域に想定される災害をハザードマップなどで確認し、避難場所や避難経路について話し合ってみましょう。

学習したことが身に付き、実践できるかどうかは、避難訓練などの行動に表れます。子どもたちの様子を確認し、フィードバックするといいでしょ。



地震が起こったら、まず、どうしますか。ひとりでも慌てないよう考えておきましょう。

災害時の心得 1

さいがいじ こころえ じしん つなみ
災害時の心得 (地震・津波)

- 地震

地震が起きると、周りの物が落ちたり、倒れたり、家具などが動いたりして、ケガをすることがあります。緊急地震速報が鳴ったり、揺れを感じたりしたら、すぐに安全な場所に移動して、身を守るようにしましょう。
- 緊急地震速報

地震発生後、強い揺れが来る数秒から数十秒前に気象庁から出される情報。テレビ、ラジオ、携帯電話などから情報が流れます。震源が近い場合、緊急地震速報より揺れの方が早い場合があります。
- 津波

海底で地震が起きると、津波が発生することがあります。津波は力が強く、速度も速いので、見えてから避難するのは間に合いません。海や川の近くなど津波が想定される地域で地震が起こったら、できるだけ早く高いところに避難しましょう。高いところがない地域では、できるだけ海や川から遠くに避難しましょう。

地震の時、周りに大人がいなかったら、どうしますか？

- 教室や体育館にいたら
- 学校の行き帰りだったら
- 自分の家にいたら
- その他の場面も考えてみましょう

避難のキーワード
落ちてこない
揺れてこない
倒れてこない

補足

1 緊急地震速報が鳴ったら、すぐに身を守る行動を取るよう指導しましょう。速報は決して万能ではないということも伝えましょう。

2 関東大震災の教訓から「ぐらっときたら火の始末」と言われていましたが、現在は身の安全確保が最優先とされるなど、時代とともに防災知識も変化しています。

災害時の心得 2 (風水害) (P7-8)

●使い方

急な大雨や台風により、川が増水してはらんしたり、地震がゆるんで土砂崩れなどが起きたりする危険もあります。川や斜面など危険な場所から離れ、避難しましょう。

●雷
積乱雲が発達すると、雷が発生しやすくなります。木のそばなど高いものには近づかず、建物の中などに避難しましょう。周りに避難できる場所がない時は、高いものから離れ、できるだけ姿勢を低くしましょう。

●竜巻
発達した積乱雲は、竜巻を引き起こすことがあります。頑丈な建物の中などに避難しましょう。

積乱雲	
「大気の状態が不安定」な時に発達しやすい雷、雷や竜巻、局地的な大雨などを引き起こすことがあります。	気象情報・注意報の種類
●気象情報・注意報の種類	特別警報 すぐに避難するなど命を守る行動をとる
●警報 自治体が出す避難情報に注意し、すぐに避難できるように準備する	警報 自治体が出す避難情報に注意する
●注意報 自治体が出す避難情報に注意する	注意報 自治体が出す避難情報に注意する

(気象庁ホームページなら気象庁気象サービス制作)

補足

1 発達した積乱雲は、雷や竜巻、局地的大雨など急激な気象変化を引き起こすことがあります。真っ黒い雲が近づいてきた、雷の音が聞こえてきた、急に冷たい風が吹

いてきた、そんな時は、積乱雲が近づいてくるしるしです。このような状況になったら、天候が変わる前の、早めの避難行動が大切であることを伝えましょう。

災害時の心得 2 (風水害) (P7-8)

●使い方

台風などの状況は事前に気象情報で確認することができます。悪天候が予想される時は、不要不急の外出は控えるよう促しましょう。局地的な大雨による道路の冠水などが起こった時、子どもだけで外にいる場合でも適切に行動できるよう、様々な状況を想定しておく必要があります。ハザードマップで、河川の位置や形を確認しておくといいでしょ。

「避難指示」などが出たらすぐに行動できるよう、自治体からの情報を積極的に入手する態勢を整えることの重要性も伝えましょう。

大雨の時、川の氾濫などで危険な場所はどこでしょうか。地図を見ながら話し合ってみましょう。



災害時の心得3(火山・雪害) (P9-10)

●使い方

火山から近い場所にある学校では、地域の避難計画や避難場所の位置などを確認しておきましょう。噴火しそうなどころには近づかないという予防の発想を促すために、噴火警報・予報の意味を伝えることも重要です。

雪害については、降雪後の路面凍結や落雪などにも注意を促す必要があります。

火山災害や雪害は、自分の住む地域で起こる可能性が低くても、旅行先などで被災することもあります。P10では、旅行先などの場面を想定して取り組むといいでしょう。



学校の近くに火山があったら、どんなことに気がつくたらいでしょうか。想像してみましょう。

災害時の心得 3

災害時の心得(火山・雪害)



●火山
火山が噴火すると、大きな噴石や火砕流が発生したり、火山灰が降りたりするなど大きな災害につながる危険があります。火山が噴火したら、すぐに安全な建物やシェルターの中に避難しましょう。噴火警報などの情報を利用して、噴火しそうな火山には近づかないことも大切です。

▶噴火警報
日本には、噴火の可能性がある活火山が多数あります。特に危険度の高い火山は、気象庁が24時間体制で監視を行い、噴火警報で危険を知らせてくれます。

●雪害
雪が降ると、見通しが悪くなっていたり、道路が滑りやすくなっていたりします。雪がやんで、崖根の雪が落ちたり、雪崩が起きたりして大きな事故につながることもあります。気象情報を利用して、積雪や凍結を予想し、歩き方や車の運転に注意しましょう。雪崩が発生しやすい場所に近づかないことも大切です。

下の様な時、周りに大人がいなかったら、どうしますか?

- 学校の行き帰りに雪がたくさん積もっていたら
- 自分の家にいる時に火山が噴火したら
- その他の場面も考えてみましょう

補足

1 気象庁は、噴火警戒レベルが運用されている火山では、レベル1～5まで5段階で警戒を呼びかけています。レベル3以上で入山規制がかかります。

2 雪があまり降らない地域では、わずかな降雪で、車が立ち往生したり、交通機関が乱れたりすることも想定されます。地域の実情に合わせて使用してください。


ワンポイントアドバイス

いざという時に

家にあるもので、災害時に役立つものを紹介します。ほかにも使えそうなものを考えてみましょう。


●ごみ袋

使い方 1



寒い時に
扉と左右に穴をあけてかぶると、防寒・防氷具になります。


使い方 2



水を運ぶ時に
段ボール箱などの容器に袋をかぶせて水を運べます。


●ラップフィルム

使い方 1



寒い時に
新聞紙を厚に巻いた上にラップを巻くと、保温できます。

使い方 2



水運が出ない時に
かぶせて使えば袋を濡らなくて済みます。

防災マップ


自分用防災マップをかこう!

ひとりの時に災害が発生しても、自分で判断して行動できるよう、自分用防災マップをかいてみよう。

▶手順を参考に考えてみよう

- ▶自宅をかこう
- ▶道路や川、大きな建物など目印になるものをかこう
- ▶避難場所をかこう
- ▶危険なところ、災害が起こった時に役立つところをかこう
- ▶避難経路をかこう

できあがったら、保護者や友達に見てもらおう



マップ発本

ページをめくって、あなた専用の防災マップをかいてみよう!

補足

1 状態を提示する方法は、例えば「骨折している人がいます。手当てをするにはどんなものが使えるでしょうか」などの問いが考えられます。

2 学校の中にあるものを実際を使って、災害時に役立つものを作ってみましょう。グループで実演発表会をするのも効果的です。

P11に挙げられていること以外で、ラップを使ってどんなことができるでしょうか。考えてみましょう。

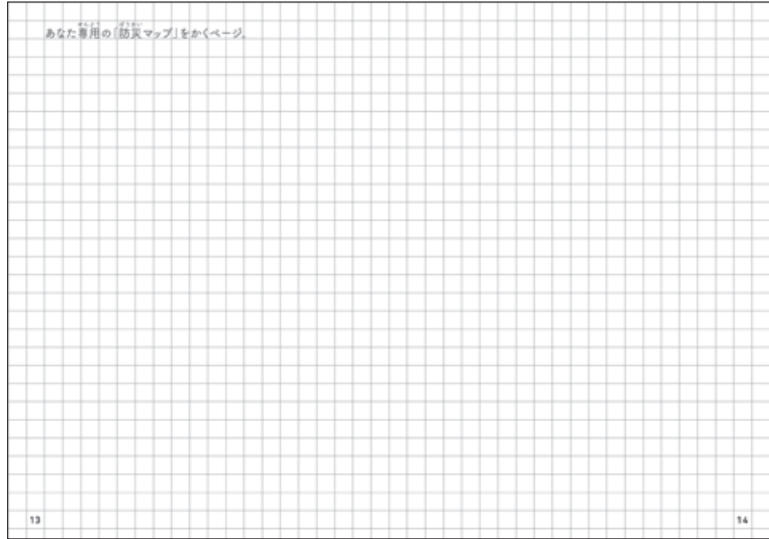


防災マップ(P13-14)

●使い方

P12の手順に沿って、子どもたち一人ひとりの防災マップ作りをしましょう。避難場所など災害時に役立つ場所だけでなく、好きな場所や面白い場所などもかくよう促すと、子どもたちの愛着が高まります。

完成した防災マップは、家に持ち帰って保護者に見てもらいましょう。保護者や地域の人と一緒に防災マップを作るのも効果的です。子どもは大人の話から地域を学び、大人は子どもの視点で安全を考えることで、地域の安全に対する意識を高めることができます。



地域の避難場所や公衆電話の位置などを記入した、自分専用の防災マップを作ってみましょう。

補足

1 防災マップ作りの別バージョンとして、自室の見取り図をかくて、防災チェックをするなども考えられます。方眼紙に部屋の見取り図をかき、地震発生時に危険なところ

を確認します。家具の配置を変える、家具を固定するなどの対策まで考えるといいでしょう。グループで取り組むと議論が盛り上がり、より効果的です。

連絡手段

災害のとき、どうやって連絡を取る？

災害発生直後は、電話が繋がりにくくなります。保護者や学校と災害時の連絡方法を確認しておきましょう。

●災害用伝言ダイヤル 171

安否情報を録音したり、聞いたりできます。利用するには、自宅などの電話番号を入力する必要があります。携帯電話の番号は使えません。録音できるのは1回30秒です。



いざという時、あなたが連絡を取るの？

- 家の電話
- 家の電話
- 連絡が取れない時、保護者と会う場所

- 公衆電話・公共施設がある場所 (防災マップにもかき込みましょう)



公衆電話や公共施設の電話は災害時、家の電話や携帯電話よりつながりやすいといわれています。いざという時には活用しましょう。

補足

1 災害用伝言ダイヤル (171) は、毎月1日、15日、防災週間 (8月30日～9月5日)、防災とボランティア週間 (1月15日～21日) などに体験利用ができます。

2 阪神・淡路大震災時には、被災地から遠方に住んでいる親戚や知り合いをキーステーションにして連絡を取り合うなどの方法が活用されました。

連絡手段(P15-16)

●使い方

災害時に、子どもがどのように連絡を取り、どこで落ち合うかなどを、保護者などの話し合いを通じて把握することがねらいです。

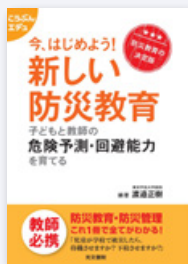
電話番号だけでなく、メールアドレスやSNSなど、連絡の取れる複数のツールを必ず確認しておきましょう。停電や携帯電話の電池切れなどで、災害用伝言ダイヤルが利用できないこともあります。

いざという時のために、保護者と落ち合う場所を決めておくことも大切です。「〇〇小学校体育館」など、より具体的な表現で記入するよう促しましょう。

電気がつかない、電話が繋がらない。そんな時、どうやって連絡を取ったらいいか、考えてみましょう。



今すぐ役立つ おすすめ書籍



『今、はじめよう! 新しい防災教育 子どもと教師の危険予測・ 回避能力を育てる』

渡邊正樹 / 光文書院
学校現場ですぐに使えるものが欲しいとの教職員の要望に応え、ワークシートや学習指導案が豊富に掲載されています。



『防災教育の不思議な力 子ども・学校・地域を変えろ』

諏訪清二 / 岩波書店
長年、防災教育プログラムの開発に携わってきた著者が、豊富な実践経験をもとに、これからの防災教育のあり方を提案しています。

編集部より

防災教育プログラム開発者の諏訪清二教諭は、防災教育に必要な要素は、知識の「整理」と意図的な「混乱」を起こし、考えさせることと説きます。当冊子で知識の整理をしたら、学校の個性に合わせた工夫で実践してください。

面白い実践事例のアイデアがありましたら今後の教材開発に生かしますのでご一報ください。

メモ	
必要な事柄をメモしておきましょう。	
● 学校	_____
● 学年・組	_____
● 名前	_____
● 血液型	_____
● 周りの人に伝えたいこと (アレルギーなど)	_____
▶ 自宅の住所・電話番号は覚えておきましょう。	
17	

補足

1 個人情報扱うページになりますので、学校や保護者の方針などを確認し、十分な配慮をした上で指導してください。

メモ(P17)

●使い方

災害時、偶然その場に居合わせた人と一緒に避難することや、病院に子どもだけが運ばれることもあります。

血液型や食物アレルギー、注意しておかなければ命にかかわる症状、家族の在宅状況など、子どもの周囲にいる人が知っておいた方がいいことを記入しましょう。いざという時に伝えるべきことを子ども自身が理解しておくことも重要です。

自宅から離れた場所で被災することも考慮して、手帳に記入する内容を保護者などと相談するよう促しましょう。

知らない人と一緒に避難することもあります。自分のことを伝えられるようにしましょう。



東日本大震災を振り返って



岩手県陸前高田市立
高田小学校
(震災当時は陸前高田市立
広田小学校に勤務)
濱口智先生

「お手紙作戦」で広がった交流

東日本大震災で被災した後、全国各地から大勢の人が支援の手を差し伸べてくれました。「お手紙作戦」の発端は、そうした人々に子どもたちの感謝の気持ちを伝え、新たな交流を生み出したいとの思いでした。文通して、日本の各地方の産業や生活の様子を伝えてもらい、生きた教材で地域の学習をしようと考えたのです。

まずは、支援へのお礼の手紙を出し、文通が始まりました。手紙のやりとりを続ける中で、子どもたちから、3月11日やその後の全国の様子を知りたいという声が上がりました。そこで、「自分たちが体験したことを書くと、文通相手も体験を書いてくれると思うよ」と促してみたところ、震災体験をつづる子が少しずつ出てきたのです。作

文が苦手でも、手紙には多くの体験を書いた子どももいました。交流を続けるうちに、子どもたちの気持ちは、被災地の復興の中で自分たちが果たせる役割は何かという未来に向かうものへと変化していきました。

まとめの発表会では、地震が起きた瞬間の思いや怖さ、遠くに津波が見えた時の驚き、震災後の生活の大変さや、離れ離れになった家族と再開した時の喜び、友だちと励ましあいながら過ごした避難所の日々など、多くの体験が語られました。優しく受け止めてくれる文通相手の方たちに、トラウマ体験を発信し続けることで、少しずつ癒やされ、心の傷を乗り越えていったのだと思います。文通相手から教わった各地域の生活や産業の様子、阪神・淡路大震災時の体験などとともに、自分たちが住む地域のことを誇らしげに語ったのが印象的でした。

防災教育は、日々の学習の中にあるのだと思います。「お手紙作戦」は防災教育として始めたものではありませんが、交流を通して、自分たちが暮らす地域への思いを育て、未来を見つめることが、結果として防災教育になったと感じます。いざという時に頼りになるのは、こうした交流で培った「顔の見える」つながりなのだと思います。

監修

渡邊正樹教授(日本安全教育学会理事長・東京学芸大学教授)

製作協力

文部科学省 初等中等教育局健康教育・食育課
南相馬市立小高小学校
諏訪清二教諭(元兵庫県立舞子高等学校環境防災科長)

協賛

教職員共済生活協同組合

ろうきん(労働金庫連合会・中央ろうきん)
日本教職員組合
株式会社K-relations
株式会社技秀堂
ダイオープリンティング株式会社
株式会社ラシスコ
株式会社ニューメディア研究所シンキング

企画・編集

一般社団法人社会応援ネットワーク

先生たちにお知らせ おすすめウェブサイト

防災情報や防災教育について、参考になるウェブサイトを紹介しします。授業で子どもたちに紹介するなど、活用してください。

- 防災情報のページ
内閣府
<http://www.bousai.go.jp/>
- 防災・危機管理e-カレッジ
消防庁
<http://open.fdma.go.jp/e-college/>
- ハザードマップポータルサイト
国土交通省
<http://disaportal.gsi.go.jp/>
- 気象庁ホームページ
気象庁
<http://www.jma.go.jp/>
- そなえる防災
NHK
<http://www.nhk.or.jp/sonae/>
- 防災教育チャレンジプラン
防災教育チャレンジプラン実行委員会
<http://www.bosai-study.net/top.html>

問い合わせ先

『防災手帳』についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。

一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育推進プロジェクト担当

メール bousai@shakai-ouen.com

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町1-12-11-3407

Tel 03-6861-3739 FAX 03-5645-2844

ホームページ <http://shakai-ouen.com/>



社会応援 ネットワーク

この冊子は競輪の補助金を受けて製作しました。